

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2016/09/30 ~ 2016/12/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587034601	科目番号 / Subject code	05870346
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13311_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (企業の国際展開とグローバル人材育成) / Globalization of the company and its human resource development		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟12 / RoomA-12		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2,3,4年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	genjima@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟5階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2238		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日16:10 ~ 17:40		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>企業は成長の過程で自ずと国際化していく。その代表は多国籍企業と呼ばれる大手企業であるが、多国籍化を伴う海外進出の動きは日本の中小企業にも最近顕著に及んでいる。この授業では多国籍企業とは何かの理解を起点として、経済のグローバル化対応して生き残りを賭けた海外進出を進めている日系企業の多くは、これまで何をきっかけとしてどのような国際化を図ってきたのか、またその中でどのような人材育成を行ってきたのかを辿る。また将来自分がグローバル企業で働く際に求められる教養や能力、専門知識等についての基本を理解する。この授業を選択する学生は、海外志向が強く、積極的にグローバルな企業で働く機会を求めらるうとの想定の下、専門用語の説明について英文の資料を使うことも多いので、高度な英語の理解が必要である。</p>		
授業到達目標/Goal	<p>企業の海外進出はなぜ必要となるのか、国際化やグローバル化がどのような段階を経て発展してきたのか、主に多国籍企業の活動を通して考える()。経済や社会のグローバル化が進展する中で、企業の成長にとって、あるいは自己のキャリアにとって多文化共生や組織のダイバーシティがいかに重要であるかを深く認識することができるようになる。()またビジネス変化の激しい現代社会の中で生き残る企業のコア人材とは何か、それはどのように企業で育成されているのかを理解できるようになる()。各テーマについては授業中にグループのメンバー間で議論し互いの意見を傾聴し、また課題レポートを書くことで、将来自分がグローバル環境や組織で働いてみたいと思った時に必要な力として、知的好奇心、教養、英語力、基礎学力、表現力、コミュニケーション力や人間関係構築力が重要であると認識できるようになる()。この授業を受講したことで、よりグローバルな企業で働く意欲が増進され、こうした企業で働くことを通して社会貢献意欲を高めることができるようになることが大きな目標である()。</p>		
授業方法 (学習指導法) /Method	<p>パワーポイントを使った講義を中心に、DVD等を教材として使用する。また各テーマについて、講義の後でグループディスカッションを行い、その内容についてプレゼンテーションを実施する。また授業内容の理解を深めるために、各テーマに対して適宜簡単な理解度テストを行う。前もって指定されたテーマについて学生が授業中に発表し、内容について質疑応答することもある。必要に応じて外部講師を招くこともある。</p>		

<p>授業内容/Class outline/Con</p>	<p>以下に各界の授業内容を示す。ただし学生の理解度や興味関心によって、一つのテーマをより時間をかけて講義することがある。また必要に応じて外部講師を招いて授業を行うことがある。</p> <p>10月6日(木) FDI(海外直接投資) 様々な要因に基づき、企業は単純な国内生産物の輸出から現地生産へと発展的に移行していく。この授業ではそうした企業行動について、歴史を辿りながら発展段階を理論的に説明していく。</p> <p>10月13日(木) 多国籍企業 多国籍企業と呼ばれる欧米日本を中心とした大手企業を採りあげ、その特徴や実態について学ぶ。</p> <p>10月20日(木) 日本企業の国際化 日本企業の多国籍化の背景とは何か。日本の社会や企業にどのような事象や環境変化が起きたのか、これに企業がどのような対応を迫られたのか等を振り返りながら、多くの企業が多国籍化してきた過程を検証する。</p> <p>10月27日(木) 日本企業の特徴 欧米の経済先進国やアジアの新興国とのビジネスにおける競争は厳しさを増している。このような経営環境の著しい変化の中で、日本企業は世界中の企業との競争に勝ち抜くためのどのような知恵やノウハウ、特徴を持っているのかを学ぶ。</p> <p>11月10日(木) 中小企業のグローバル化 日本の社会を支えてきたのは、大多数の中小企業であると言ってよいであろう。グローバル化は今や大企業に必要とされる不可避的な事業展開のみならず、ほとんどの中小企業が対応を迫られている課題となっている。こうした企業は、どのようなビジョンや戦略に基づいて行動しているのかを考える。</p> <p>11月17日(木) ビジネス倫理と企業行動 企業による犯罪や不祥事が後を絶たない。企業の持つ倫理性(善行を促し悪行を抑止する力)を企業理念や社是、社訓を通して考える。</p> <p>11月24日(木) 企業文化 社会には様々な文化が存在するが、企業にも独自の文化が存在する。こうした独自の企業文化がビジネスのやり方にどのような影響を与えているのかを考える。</p> <p>ビジネスの世界には急激な環境変化が起きやすい。学生諸君は日常新聞を読むことで、企業を取り巻く変化についての関心を高めることを期待する。小テストは授業中に数回実施するが、定期試験は行わない。</p>
<p>キーワード/Key word</p>	<p>多国籍企業、日本企業の国際化、コア人材、グローバル人材、グローバル人材育成、企業倫理、企業文化</p>
<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>教科書は使用しない。 参考図書： 「日本企業の国際化」大石芳裕編著 「The Global Challenge, International Human Resource Management」Paul Evans et al</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>出席を前提としたグループワーク参加10% レポート 70% 小テスト20% 期末試験は実施しない。</p>
<p>受講要件(履修条件)/Requirements</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必要な学習：週2時間、課題レポートは必ず提出すること。 ・テーマに関連した事前の資料はきちんと読んでくること。 ・グループワークに積極的に参加し、自分の意見を積極的に発言する意欲と英語の文章に取り組む意欲を持っていること。 ・授業で使用したパワーポイントの内容はLACSに添付しないので、学生は授業中にPCを使用し、授業内容の要点を書きとること。
<p>アクセシビリティ/Accessibility</p>	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-Mail) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
<p>備考(URL)/Remarks(URL)</p>	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ/Message for students</p>	<p>皆さんが社会に出る頃はもちろん、その先はもっと経済や社会のグローバル化が進んでいるでしょう。特に海外に拠点を複数持つ企業では、既に自分の周りに外国人がたくさんいて、彼らと日常的に一緒に働く必要があり、うまくコミュニケーションを図ることが不可欠な状況が増えてくるものと予想されます。グローバルな企業で働くコア人材になるために、グローバルとは何かについて一緒に学びましょう。</p>
<p>授業計画詳細/Course Schedule</p>	
<p>回(日時)/Time(date and time)</p>	<p>授業内容/Contents</p>

第1回 9月30日(金) 3&4校時	<p>授業のオリエンテーションを行い、その中で授業内容、進め方、成績評価等を説明、教員のキャリア紹介を行う。</p> <p>1回目の授業のテーマ：国際収支と国際ビジネス</p> <p>国際収支の変動は経済のや政治の動きに連動して変化する。その数値は一国の経済力を表わすが、その中心となるのが企業の活動を通して行われる財やサービスの交換、様々な金融投資等である。この授業を通して国際収支の基本的な項目を理解し、それが国際ビジネスとどうつながっているのかを理解する。</p>
第2回 10月7日(金) 3&4校時	<p>テーマ：多国籍企業について</p> <p>ビジネスの世界に技術革新をもたらした企業や市場競争力を持つ企業は、やがては多国籍化し、世界経済を牽引する有力な存在となる。主にそうした企業はこれまで欧米や日本等から発生し、自国の経済発展に大きく貢献するのみならず、時には発展途上国の政治、経済、社会に大きな影響を及ぼしてきた。ここでは世界を代表する企業に焦点を当てて、多国籍企業となった経緯、役割や存在価値等について考える。多国籍化理論についても学ぶ中で、大手企業が国内市場の飽和感、業務の多角化、新たな成長市場への参入、製品販売や原材料調達のための海外市場の開拓、利潤拡大の可能性の追求といった様々な誘因により、企業は国内生産、国内販売の段階から徐々に輸出を行うようになり、その段階を経て海外拠点の設立と言った直接投資に向かう。ここではそうした企業行動を歴史的に辿ることで、FDIとは何かについて理解する。</p>
第3回 10月14日(金) 3&4校時	<p>テーマ：日本企業の国際化</p> <p>日本企業の急速な成長は主として第二次世界大戦後に起こった。ここでは日本企業はどのように成長しその中からどのような企業が多国籍化してきたかを検証する。またその過程で欧米との貿易が盛んとなり、輸出が増大して日本の社会は豊かになったが、同時に相手国との間に様々な経済や文化摩擦が生じ、多くの問題を生んできたことを振り返る。その後日本企業は、内外政府の要請もあり、これを解決する手段として輸出抑制や輸出割り当てを受入れ、その段階を経てむしろ自ら現地生産による積極的な成長への活路を求めようになった。この授業ではそうした外部環境の大きな変化を通して、日本の企業がどのようにグローバル化に対応し多国籍してきたかを検証する。</p>
第4回 10月21日(金) 3&4校時	<p>テーマ：日本企業の経営の特徴</p> <p>第二次大戦後から1990年代までの高度成長期を通して、日本企業の躍進を支えた企業組織にはどのような経営システムの特徴があったのかを学び、低成長時代に入った今、日本企業が生き残るために今後必要とされる国際化、グローバル化対応の中身について考える。</p>
第5回 10月28日(金) 3&4校時	<p>テーマ：中小企業のグローバル化</p> <p>日本企業の大半は中小企業であり、中小企業の活躍がなければ日本社会の活力や雇用を十分に生み出すことはできないし、経済は機能しないといってもよいであろう。しかし現実には多くの中小企業が、グローバル化による過当競争を強いられ、苦しい経営を強いられている。グローバル化の大きなうねりに対して中小企業はどのように対応しているのか、その課題や問題点について考える。</p>
第6回 11月4日(金) 3&4校時	<p>テーマ：ビジネス倫理と企業理念</p> <p>企業による犯罪や不祥事は枚挙に暇がない。なぜこのような不祥事や悪質な行為が後を絶たないのか。法律の判断が明らかではないグレーゾーンを見つけてビジネスを行い利益を出すという考えの経営者もいまだに多く存在するが、人に学ぶべき道徳や倫理があるように、企業活動にも社会の公器としての役割と責任を維持するために必要な社是や社訓があるはずである。そうした倫理観はどのように形成され程度企業内に浸透しているのだろうか。社是や社訓を持たないあるいは無視するようなBlack企業が多く発生するのはなぜか。それを防止し、改善するために自分たちにできることは何かを考える。</p>
第7回 11月11日(金) 3&4校時	<p>テーマ：企業文化</p> <p>社会には様々な文化が存在する。同じように企業にも独特な文化と呼ぶべきものが存在する。同じ業種の企業であっても、ビジネスに違いを出さなければ生き残れないが、企業の業績の違いやカラーは企業文化とどのように関係しているのか。また企業文化を生み出しているのは何かを考える。</p>
第8回 11月25日(金)	<p>まとめ：これまでの授業内容を振り返る。 最後に学生による授業評価を行う。</p>
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 1ク ォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/06/04		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587035301	科目番号 / Subject code	05870353
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13331_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (英語で学ぶオランダと西欧の文化) / The Culture and History of The Netherlands and Western Europe in English		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru, 源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟43 / RoomA-43		
対象学生 (クラス等) / Object Student	E, L, F, P		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	Center for Language Research B-112 gengo-kyôiku-kenkyû-sentâ		
担当教員TEL/Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー / Office hours	Before and after the lecture On appointment		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	Over 400 years ago, diplomatic and trade relationships between The Netherlands and Japan were started through Nagasaki. The Netherlands are situated in the center of Europe and because of this location are strongly connected to the historical and cultural development of other Western Europe nations. This lecture focuses on the developments in The Netherlands and discusses these developments in relation to those in the countries surrounding it. The historical bond between The Netherlands and Nagasaki will also be discussed.		
授業到達目標 / Goal	The goal of this lecture is to give students a basic knowledge of the historical and cultural development of The Netherlands and other Western European countries. The history of the relationships between The Netherlands and Japan is also a point of focus		
授業方法 (学習指導法) / Method	This class will be given in English. A PowerPoint presentation will be used to achieve a better understanding of the discussed subjects. as a part of the lecture students will be required to work in small groups to answer questions that are related to the subjects that are discussed in class. To improve their understanding of the subjects discussed, students will receive homework-assignments either to be done in groups or on their own,		
授業内容 / Class outline / Con	This lecture discusses the culture and history of The Netherlands and Western Europe, starting from the rise of the Roman Empire up to the present.		
キーワード / Key word	The Dutch-Japanese relationship, International relationships, Cultural anthropology, English, History, Culture		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	Handouts will be given every class		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	The method for grading is the following: attendance and study attitude 40%, final test 40%, final paper (or presentation) 10%		
受講要件 (履修条件) / Requirements	Full attendance is required		
アクセシビリティ / Accessibility			
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	Study the old, understand the new!		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
1st	The Rise and Fall of the Roman Empire The Introduction of Christianity to Western Europe		
2nd	Charles the Great (Charlemagne) and the Carolingian Empire The Crusades The Development of the Dutch Language		
3rd	The Rise of the Province of Holland The Crisis of the Late Middle Ages The Hanseatic League and Trade		

4th	Spain and Portugal, The Age of Discovery Erasmus and the Renaissance Charles V and the Holy Roman Empire
5th	Martin Luther and the Protestant Reformation William of Orange and the Dutch Revolt
6th	The Republic of the Seven United Netherlands Art in the 15th and 16th Century
7th	The Dutch East India Company VOC The Dutch in Japan, Hirado and Deshima
8th	The Dutch Golden Age Art in the 17th Century
9th	Slavery The Age of Enlightenment and the French Revolution The Napoleonic Era
10th	The Kingdom of the Netherlands Belgian Independence
11th	The Industrial Revolution Child Labor Women's Rights Impressionism and Vincent van Gogh
12th	The Economical Crisis of the 1930 's World War I The Art of De Stijl
13th	World War II The Beginning and End of the Cold War The Netherlands in the 20th Century
14th	The Netherlands at Present Religion and Traditions, Land of Bicycles
15th	The Netherlands at Present Education and Sports, Politics, Food and Sweets
16th	Final Test

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/06/04		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587035301	科目番号 / Subject code	05870353
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13331_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (英語で学ぶオランダと西欧の文化) / The Culture and History of The Netherlands and Western Europe in English		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru, 源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟43 / RoomA-43		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化・教育・経済・薬学・水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	言語教育研究センター		
担当教員TEL / Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー / Office hours	講義の前後		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	日本とオランダとの交流が江戸初期から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、西欧の歴史的・文化的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の習得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。		
授業到達目標 / Goal	英語でオランダと西欧の歴史と文化、または、日蘭交流についての基本的な知識を習得します。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(Powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダと西欧の文化と歴史を紹介します。		
授業内容 / Class outline / Con	ローマ時代から現在までの歴史の出来事を説明しながら、オランダと西欧の発展を理解させます。オランダを知ることで、西欧の文化の発展も理解することができます。		
キーワード / Key word	英語・歴史・国際理解・比較文化・日蘭交流・蘭学・文化		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教材・プリント教材 毎回配布します		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	成績評価は、定期試験50%、出席・授業態度40%、英語でのレポート(発表)10%		
受講要件 (履修条件) / Requirements	全回出席が原則		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	英語での講義を受ける抵抗もあると思いますが、講義の内容をしっかりと聞き、渡された教材を予習・復習すれば、英語能力はアップし、オランダや西欧の文化と歴史を広く、楽しく理解できるようになります。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ローマ帝国時代 西欧でのキリスト教の布教		
第2回	カール大帝とカロリング(フランケン)帝国 十字軍 オランダ語文学の誕生		
第3回	ホーランド州の発展 中世末期の危機 北ヨーロッパのハンザ貿易		
第4回	スペインとポルトガル、大航海時代 エラスムスとルネサンス カール5世と神聖ローマ帝国		

第5回	マルティン・ルターとプロテスタントの宗教革命 オラニエ公ウィレム1世とオランダの独立
第6回	ネーデルランデン7州連邦共和国 15・16世紀の美術
第7回	オランダ東インド会社の創立 日蘭交流、平戸・出島
第8回	オランダの黄金時代 17世紀の美術
第9回	奴隷制 啓蒙思想時代とフランス革命 ナポレオン時代
第10回	オランダ王国 ベルギーの独立
第11回	産業革命 年少労働 女性権利 印象派とフィンセント・ファン・ゴッホ
第12回	第一次世界大戦 1930年代の世界恐慌 De Stijlの美術
第13回	第二次世界大戦 冷戦時代 20世紀のオランダ
第14回	現在のオランダ 宗教と伝統・祭り・自転車の王国・など
第15回	現在のオランダ 教育とスポーツ・政治・食べ物とお菓子・など 講義の総括
第16回	定期試験

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 2クオ ーター / Second Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 4, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2016/06/06 ~ 2016/08/08		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587036101	科目番号 / Subject code	05870361
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13351_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (異文化接触とコミュニケーション) / Cross-cultural Contact and Communication		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	埴田 美有紀 / Tada Miyuki, 源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	埴田 美有紀 / Tada Miyuki		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	埴田 美有紀 / Tada Miyuki		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟43 / RoomA-43		
対象学生 (クラス等) / Object Student	全学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	miyut@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教養教育棟 (環境科学部) 2階 国際教育リエゾン機構 埴田研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2240		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日3校時、またはメールで日程調整		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	日本語で話しているのに言いたいことが伝わらない、言っていることがわからない、という経験があるのではないかと思います。これは地域差、世代差、性差といったことによる言葉遣いの違いと、その話をするための前提や会話の進め方といった個人的な違いによるものが原因です。この授業では、普段自分が使っている日本語を見つめ直すことにより、どんな自分がどんな日本語を使ってきたのか、どんな日本語を使えばより伝わるのかを考えます。同時に自分が使っていない日本語はどんなものなのか、それを使う(あるいは使わない)ことにどんなメリットやデメリットがあるのかも考えます。身近な「異文化」に目を向けることで、違う言語を使う「異文化」もより身近に意識できるようになると思います。		
授業到達目標 / Goal	自分が使っている日本語について多角的にみることができるようになり、日本人同士のコミュニケーション、ひいては外国人とのコミュニケーションについて知る。		
授業方法 (学習指導法) / Method	テーマについてグループで意見を出し合い、授業内でまとめる。(グループ活動) グループ活動のまとめとして、個人で調べたり考えたりしてレポートにまとめて提出する。(個人作業)		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	社会言語学、異文化、日本語		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	『社会言語学入門』 東照二 著、 研究社		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	グループ活動 10回 × 5% = 50% 個人作業 (課題) 4回 × 10% = 40% 出席、授業態度 10%		
受講要件 (履修条件) / Requirements			
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	グループ活動も個人作業も授業時間内に提出してもらいます。そのため、欠席すると、その日の出席・授業態度だけでなく、グループ活動や個人作業の点数もありません。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション 第1章 社会言語学とは何か		
第2回	第2章 言語の選択 4 二言語併用者とコードスイッチング 5 どうしてコードスイッチングするのか 6 どのような言語規則があるのか		
第3回	第2章 言語の選択 7 言語の死 8 言語の誕生: ビジンからクレオールへ		

第4回	第2章 言語の選択 1 多言語社会 2 ダイグロッシア 3 ドメイン
第5回	第3章 言語のバリエーション 2 地域方言とはなにか
第6回	第3章 言語のバリエーション 3 社会方言とはなにか
第7回	第3章 言語のバリエーション 5 ジェンダーと言語
第8回	第3章 言語のバリエーション 6 年齢と言語
第9回	第3章 言語のバリエーション 1 ウィリアム・ラボフの古典的研究
第10回	第4章 言語とコンテキスト：社会言語学の理論 2 スピーチ・アコモデーション
第11回	第4章 言語とコンテキスト：社会言語学の理論 3 ポライトネス・ストラテジー
第12回	第4章 言語とコンテキスト：社会言語学の理論 4 力と仲間意識
第13回	第4章 言語とコンテキスト：社会言語学の理論 1 オーディエンス・デザイン
第14回	第5章 社会言語学とその周辺 3 セクシスト・ランゲージ
第15回	第5章 社会言語学とその周辺 4 異文化間コミュニケーション